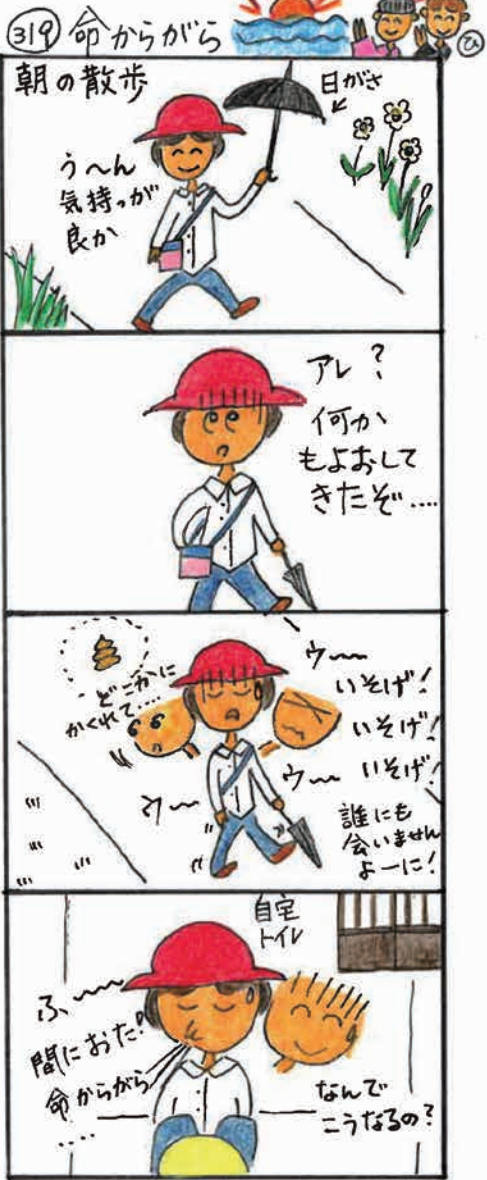


ほろちん



大崎短歌会

兼題 『忘年会・自由』

色づきし庭の銀杏の散りはじめ

秋をとびこえ冬の気配に

十二月父の逝き日も十二月

何年経てもなじめぬ二文字

手揉みして洗う野良着のポケットに

野良豆の種二個潜みおり

咲きほこる山茶花白く寒に入り

薬二粒の日常なりし

ちんどん屋師走の町を練り歩く

遠い昭和の幼き頃よ

冬支度済まぬ土曜日木枯らしの

吹き石路眺め温かき鍋

穂園芳江

坂元つる子

山下海征

本後淑子

実吉安仁

井元かず子

卯の跳ぬる四季折々を歩みきて
戦火絶えぬに期す年忘れ会

馬場みさ

薩摩郷句

兼題 『花』

表彰式

誇らしゆ輝い 胸ん花

(唱)

男前じゃち また惚れ直えつ

上村牛歩

嫁が来つ 花が咲たよな 過疎ん村

(唱)

良か娘が嫁たち 村中が沸ちよつ

上窪小絵

転勤の 花い恩師は 目い涙

(唱)

叱った生徒が 花どん呉れつ

北村虎王

球団で も一花言つ 拾われつ

(唱) 今度だ頑張つち 監督き誓つ

藤元鬼瓦

堂々と 花道ちゆ歩ん 勲章貫れ

(唱) 小んけ親父が 凄ぜ大つ見えつ

諸木美舟

当選の 事務所しえ次次ぎ 胡蝶蘭

(唱) 嬉し当選 有難て事じゃ

諸木小春

花じゃれば 百合が一番 豪華じゃつ

(唱) 百合が壇上で 派手を取つちよつ

長重リリー

今日は花見 一杯やろ言つ 酔漢いなつ

(唱) 花を馳走い 旨め過ぎい焼酎

二見愚楽満

無精者 造花ではれを しちよい墓

(唱) 派手派手飾つ 豪華い見えつ

満石うらら

花好きな 花好つの友達 沢山寄つ

(唱) 花が仲達 良か友達し恵つ

西ノ園ひらり

溫和ち母ん 周いな年中 笑顔ん花

(唱) 十人が十人 良か人じゃ言つ

遠矢耐多